

平成20年度 国語部会研究主題

1 研究主題

主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造 -「読むこと」を基盤に、知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導-

2 研究主題設定の理由とその考え方

(1) 基本的な考え方

新教育基本法の施行、全国学力・学習状況調査の実施、中央教育審議会教育課程部会における審議のまとめの公表、さらには、改訂学習指導要領の告示など、教育界においても、国際化・高度情報化社会や学力低下の問題に対応すべく諸施策が出されている。この変化の激しい時代を、子ども一人一人が、心豊かに、たくましく生きるためには、生きて働くことばの力が身に付くようにし、自他のことばを尊重する心情や態度を養うことが大事である。特に、近年強く求められている「人間形成の中核をなす」「すべての教科等の学習の基本となる」という役割を担う国語科においては、意欲的に、ことばを通して豊かに他者や社会とかがわり合い、ことばへの興味・関心をもちながら、自己の言語生活を豊かにし、願いや思いを実現していく「生きる力」を備えた子どもを育てることが責務である。

(2) これまでの研究から

本県国語部会では、そのような子どもを育てることをめざし、平成12年度から「生きる力が育つ国語科授業の創造」を主題として、実践研究に取り組んできた。子どもが主体であるという教育の原点に立ち、指導者は、一人一人の子どもの内に「生きる力」が「育つ」ことに意を注ぎ、「育つ」ように学びの場を設け、様々に指導・支援をしてきたのである。平成12年度以降の実践研究における主な成果を列挙すると、次のようになる。

- ・一人一人の子どものことばの力、ことばの学びの実態を把握することができた。(学習者理解のあり方)
- ・身に付けさせたいことばの力を系統化してとらえることができた。(国語能力の明確化と国語能力表の作成)
- ・年間あるいは6年間のことばの力を見通して取り組むことができた。(国語能力を踏まえた年間指導計画の充実)
- ・子ども一人一人の国語学習への意欲や学力の実態を踏まえ、ことばの力が育つ授業を展開することができた。(国語科授業の充実)
- ・国語能力の評価規準の明確化、評価計画の具現化を図ることができた。(評価のあり方)
- ・各単元・単位時間における目標設定・指導・評価の一体化を図ることができた。(指導と評価の一体化)
- ・思考力を働かせて、読んだことを表現したり、表現したことを読んだりする単元を開発し、展開することができた。(「読むこと」を見据えた単元の開発)

これらの成果は、身に付けさせたいことばの力を系統化して明らかにし、子どもの実態を把握した指導と評価の一体化をねらい、一人一人に生きる力が育つ国語科授業を創造することにより得られたものと考えられる。

(3) なぜ「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」か

本研究主題は、言語の教育としての国語科の役割を再認識し、「主体的にことばを学ぶ子ども」「自覚的にことばを学ぶ子ども」が育つための国語科授業を創造していくことを目的としている。これは、国語科においても、理念として改訂学習指導要領でますます重要とされる「生きる力」(基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力など)をはぐくむ必要があると考えたからである。

一人一人が、自分は何のために学んでいるか、どのようにことばの力を付けているかなどが分かるというように、「自覚的にことばを学ぶ」力を身に付けていけば、自己のことばの学びや生活を見つめるとともに、満足感や自己肯定感を得ることができるようになる。また、一人一人が、「主体的に

「知識・技能の習得」と「活用する力」の関係は、次ページの「(2) 学習指導の充実の方向」を参照。

○国語科の立場は、文化審議会答申・中央教育審議会教育課程部会審議のまとめに詳しい。

○現代の社会を生きていく子どもに求められる姿。

○平成12年度、「第27回徳島県小学校国語教育研究大会(小松島大会)」以降の研究の経緯。

○これまでの成果。

- ・学習者理解
- ・国語能力(表)
- ・年間指導計画
- ・国語科授業の充実
- ・評価の具現化
- ・目標設定・指導・評価の一体化
- ・「読むこと」を見据えた単元の開発

○「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」を求める理由。

- ・国語科における「生きる力」をめざして

○「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」のとらえ方とそのよさ。

ことばを学ぶ」力を身に付けていけば、自己の国語科学習の成果と課題を明確にして、自らの課題を解決しようと、意欲をもち続け、主体的に取り組んでいくようになる。ことばを学ぶ自覚が芽生えることにより、より主体的に学ぶようになり、主体的に学ぶことにより、いっそう自覚が深まっていき、学んだことを定着させることができる。このように、「自覚的にことばを学ぶ」ことと「主体的にことばを学ぶ」こととは、螺旋的に繰り返されるものである。

(4) 「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」の姿

一人一人が「主体的・自覚的にことばを学ぶ」ためには、意欲をもって言語活動に打ち込む単元・授業を展開していくこと、つまり、これまで実践してきた、「単元学習の理念」を生かした国語科授業を展開することが大切である。

以上のことから「主体的・自覚的にことばを学ぶ子ども」として、たとえば、次のような姿が考えられる。

- ① ことばへの興味・関心をもち、そのよさなどに気付いたり、理解したりする子ども
- ② 進んで自己のことばの生活を見つめ、その中から、学ぶべき価値ある課題を発見する力、また、ことばの生活・文化についての課題を育てていく力や問い続ける力を有する子ども
- ③ 「話す・聞く」「書く」「読む」言語活動を、確かに、豊かに展開し、情報の収集、選択などを行いつつ、課題を解決したり、自己の考えをつくり出したりすることができる子ども
- ④ 「話す・聞く」「書く」「読む」言語活動を、他（他者や学習材）とかかわりながら展開し、自己の考えを伝え合いながら、よりよい考えをつくり出していくことができる子ども
- ⑤ 一連の学習を通して、ことばの学びの過程や成果を確認することができ、満足感や自己肯定感を得て、新たな学びへの意欲へと変えていく子どもや、振り返る習慣をもつなど評価への目を有する子ども

○「単元学習の理念」を生かす。

○「単元学習の理念」とは「子どもの興味・関心・必要に根ざす話題をめぐって組織されるひとまとまりの価値ある活動をとおして行われる学習という考え方」のこと。

○めざす子ども像の「例」。
・興味・関心をもち、育てることから、自己評価へと変えているが「螺旋的」に

○子どもの実態と社会の要請から「読むこと」を取り上げる。

- ・本県の子どもの国語力の実態
- ・文化庁文化審議会答申
- ・文部科学省の調査結果
- ・経済協力開発機構の調査結果

○「審議のまとめ」と本県の研究の流れとの関係。

○「単元学習の理念」を生かすのは、単元学習では「話す・聞く」「書く」「読む」力を総合的に身に付けさせることができるからである。

○特に「『読むこと』を基盤に」・「活用する力」

3 研究副主題設定の理由とその考え方

(1) 「読むこと」を取り上げた理由

「平成19年度徳島県学力調査」によると、本県の子どもの国語力の実態として、「話すこと・聞くこと」の力及び、「読むこと」の力を付けることが、「全国学力・学習状況調査」においては、「読んだこと」を活用することで思考力・判断力・表現力等を育成することが、課題に挙げられている。平成18年に実施された経済協力開発機構の「生徒の学力到達度調査」の結果を受けて、「書くこと（話すこと）」につながる「読解力」（いわゆる「PISA型読解力」）の向上も引き続き求められている。また、平成16年2月の文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」には、『小学校段階では、「聞く」「話す」「読む」「書く」のうち、「読む」「書く」が確実に身に付くようにしていくことが大切である。』と述べられている。

以上のように、本県の子どもの国語力の実態と社会の要請から、緊急の課題として「読むこと」の学習指導の充実があるととらえ、本研究では、子どもが「主体的・自覚的にことばを学ぶ」国語科授業を展開していく過程で、「読むこと」を基盤とした学習指導の研究を進めていくことにした。

(2) 学習指導の充実の方向

平成19年11月に公表された「教育課程部会における審議のまとめ」には、「基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要」と述べられている。わけでも、小学校国語の改善の基本方針には、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場を尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する」という方向性が示された。

つまり、「基礎・基本となる知識・技能の習得」と「それらを活用した思考力・判断力・表現力等の育成」が、車の両輪として、求められている。このことは、知識・技能と思考力・判断力・表現力等とを結び付けていくことであり、「単元学習の理念を生かした」国語科授業を構想・展開する中で、さらなる知識・技能の定着を図りながら、それらを活用する場をどう設定していくかを研究しなければならないと考える。その際には、子どもの学習意欲を高める指導の工夫が重要である。

(3) 「『読むこと』を基盤に」・「活用する力」の考え方

「『読むこと』を基盤に」とは、「読む」力を言語活動・国語力の基底にあるととらえて、「話す・

聞くこと」「書くこと」「言語事項」と単元内・単元間等で深く関連を図り、活用することによって、「読む」力を育てていくことである。また、国語科における「活用する力」とは、習得した知識・技能を生かし、目的・意図・課題等に応じて、言語を操作したり運用したりする力のことである。

その際には、たとえば次のような言語活動「例」が考えられる。

- ① 文章を意欲的に、楽しく進んで読む。
- ② 文章を目的や意図に応じて読む。
- ③ 叙述に即して、正確に読む。
- ④ 叙述に即して、豊かに読む。
- ⑤ 自己の課題を解決するために、目的をもって読む
- ⑥ 思考を深めたりまとめたりしながら読む。
- ⑦ 自己の考えや他の情報と比較したり、検討したりしながら読む。
- ⑧ 読んだことに対して、自己の考えや感想・意見をもつ。
- ⑨ 読んだことについて、その要旨や筆者の考えなどをとらえて書いたり、話し合ったりする。
- ⑩ 読んだことを活用して、自己の考えや感想・意見を書いたり、話し合ったりする。
- ⑪ 読んだことや読む活動を日常の生活に生かす。
- ⑫ 読んだことを自らの読書生活に生かし、読書の世界を広げる。

いずれにしても、「読むこと」を活用する言語活動を組織し、一人一人に確かで豊かな「読む」力を育てていくことが肝要である。「読むこと」を他の領域や教科等と関連させたり発展させたりすることは、「単元学習の理念」を生かした国語科授業を構想・展開することであり、「主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ授業の創造」につながっていく。

4 研究の内容と方法

(1) 主体的・自覚的にことばを学ぶ力を育てるために、次のことを意図的・計画的に行う。

① 他とかかわり合いながら学ぶ力を育てる。

主体的・自覚的にことばを学ぶ力を付けるためには、他とかかわり合う力は欠かせない。他（他者や学習材）と出会い、深くかかわり合うことによって、子どもは、他に触発され主体的になり、自己の成果や課題を発見したり、他のよさを理解し取り入れたりすることができる。また、他者の学習と比較したり重ねたりすることによって、子どもは、自他を見る目がひらかれ自覚的になり、自他の学習の実態を改めてとらえることや、自他の学習の様子を振り返るための多様な視点を得ることなどができる。他と深くかかわり合うための、伝え合い通じ合う力が育つよう指導を行いたい。

② 自己の学習の成果や課題、自己の成長など、自己の学びの姿をとらえる力を育てる。

主体的・自覚的に学ぶ力を付けるために、学習活動や学習した内容などを振り返り、記録として残していく活動が大事である。「学習の記録」をまとめることを通して、満足感や自己肯定感を得るとともに、学んだことの成果や次への課題を見出す力も育つ。必要なことを記録として書き記したり、継続して記録を書き重ねたりする力、学んできたことをまとめて書く力等が育つよう、指導していくことが求められる。そうすることで、学習した内容をさらに定着させることもできる。

③ 国語力を明確にした国語能力表をもとに、年間指導・評価計画を立案し、その活用を図る。

国語科の授業の目標は、子ども一人一人に国語力を付けていくことである。そのために、まず、6年間の子どもの発達を見通して、どのような国語能力を身に付けさせるかを明確し、学校や学級の実態を踏まえた国語能力表を作成する。そして、それに基づいた年間指導・評価計画を立案し、国語能力表と年間指導・評価計画の効果的な活用を図る。その際には、「読む」力と「話す・聞く」力、「書く」力を意図的に関連させる必要がある。

④ 子ども一人一人のことばの生活に根ざした単元や授業を構想・展開する。

子どもが主体的・自覚的に学習に取り組むためには、一人一人のことばの生活を見つめ、その関心・必要感を把握することも欠かせない。一人一人のことばの生活に根ざした課題を見出すことができるようにするとともに、個に応じた様々な学習が成立する言語活動を組織し、目的に応じて学習材を編成していく。単元・授業を構想する際には、その単元・授業の言語活動において、どこで主体的な学びを成立させるか、自覚的な学びを成立させるのかを明らかにしておくことが肝要である。それらの学びを成立させるためにも、「学習の手引き」などによって指導していきたい。

の概念規定。

○言語活動「例」

ここに挙げたことは、あくまでも「例」であり、多様な言語活動が求められる。したがって、各学校や学級の子どもの実態に応じて自在に言語活動を組織していきたい。なお、①から④は、主に『読むことを』基盤にした活動、⑦から⑫は主に「活用する力の育成を図る活動」、⑤・⑥はその両者にまたがる活動「例」。

○研究主題解明のために。

○「主体的・自覚的に学ぶ子どもを育てる」ために。

・他（他者や学習材）とかかわるといふ観点から

・自己評価力を育てるといふ観点から

○「主体的・自覚的に学ぶ子どもを育てる」ための基盤として。

・国語能力表、年間指導・評価計画の立案と活用という観点から

【国語能力表（例）は、総合教育センターホームページ内国語部会参照】

・意欲をもって学習に取り組めるよう、子どもの側に立った授業を構想・展開していくといふ観点から

(2)「読むこと」を基盤にした国語科授業の充実を図るために、次のことを意図的・計画的に行う。

① 「読むこと」と「話す・聞くこと」「書くこと」「言語事項」との能力の関連を図る。

年間指導・評価計画を立案、単元・授業を構想する際には、「読むこと」と「話す・聞くこと」「書くこと」「言語事項」のそれぞれの能力がどのように関連するか、どのように関連付ければ子ども一人一人が「活用する力」を身に付けていくか、その見極めと関連のさせ方が重要である。関連を図る際には、読む力と話す・聞く力、書く力とを結んで、活用できるように工夫する。

② 目標・指導・評価を一体化し、子どもが意欲的に「読むこと」に取り組む単元を構想・展開する。

前述の「言語活動例」をもとにして、子ども一人一人が「読むこと」が楽しい、「読んだこと」が生きた、活用できたという実感や満足感を得られるような単元を構想・展開したい。そのためにも、「読む」目的を明確にさせるとともに、多様な言語活動を組織し、意欲的に活動する場を設けることを重視する。その際には、国語能力表等をもとにして、適切に単元や授業の目標を設定することや、学ぶ過程を重視して評価し、設定した目標を達成できるように指導しなければならない。

③ 「読むこと」を基盤にした単元の開発を図る。

「読むこと」を指導する単元の目標や言語活動は、学習材が同じであっても、多様である。単に学習材の内容を読み取るのではなく、「読んだことを、相手に知らせるためにレポートを書く」、「読んだことについて、感想や意見を話し合い、考えを深める」など、「書くこと」や「話す・聞くこと」と結んだ単元を開発していく。その際に、指導者は、適切に目標を設定するとともに、意欲的に学ぶことができるよう、言語活動の内容や方法に留意しなければならない。

④ 基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、それらを活用する力を育てる。

毎時間の学習指導の目標を明確にし、子どもが意欲を高めたり持続したりする工夫をしながら、基礎的・基本的な知識・技能のいっそうの定着を図る。また、目標に応じて、それらを「活用する場」を意図的に設定し、活用する態度や能力を着実に身に付けていく学習指導が必要である。

そのために、「読み取ったことを自分なりに書いたり話したりすることで、思考力や表現力等を育成する」「書いたり話したりするために個別に読む、あるいは集団で読み合うことで、思考力や判断力等を育成する」「思考力や表現力等を育成するために、個別または集団で思考したり表現したりする言語活動を組織する」といった学習指導が考えられる。

⑤ 「学習の手引き」や「学習の記録」の活用をするなど、「読むこと」の学習指導の充実を図る。

「読むこと」を基盤にした言語活動を組織し、国語力を育てていくためにも、「学習の手引き」や「学習の記録」が欠かせない。子ども一人一人の学習の成果や課題等を「学習の記録」から把握し、子ども一人一人の実態に応じた「学習の手引き」を活用することによって、「読むこと」を基盤にした学習指導を充実させる。

(3)「読むこと」を豊かにするために次のことに留意する。

① 他教科等との関連を考慮し、年間指導・評価計画を作成する。

すべての教科等で国語力を育成するという考えのもとに、他教科等との関連を考慮することにより、「読む」力を豊かに活用する場が、必然性をもって生まれる。この場においても、子どもは国語科で身に付けた力を活用しながら、繰り返し学んでいくことができる。

② 図書館の効果的な利用を図る。

情報センターとしての図書館の存在と並んで、読む楽しさを味わう場としての図書館の存在は、子どもの心を豊かに育てるうえでも大事である。朝の読書や読み聞かせなど、日常の読書への取り組みとともに、学校や地域の図書館の利用を子どものことばの生活に位置付けたい。

③ 『作文読本』の効果的な活用を図る。

『作文読本』は、読んだことをまとめて書いたり、読んだことに対する考えを書いたりするなど、「読むこと」と「書くこと」とを関連付けて子どもに国語力を付けるためにも、その活用を図りたい。書く力がなければ、読む力が付きにくいことを思えば、『作文読本』を効果的に活用したい。

④ 学級や学校の言語環境づくりに心がける。

音声言語環境としての指導者の話しことばや読み聞かせ、文字言語環境としての背面黒板や掲示板、新聞、さまざまな読み物等の活用を図る。国語科の指導においては、日々の授業での板書も重要な位置にある。特に「読むこと」においては、学級文庫の活用や充実を図りたい。

○研究副主題解明のために。

○「読むこと」を基盤にした授業の充実のために。

・能力の関連を図るとい
う観点から（指導者の
側から）

・学習意欲を育てること
と、目標・指導・評価
の一体化という観点か
ら

・「読むこと」を基盤に
した単元開発の観点か
ら

・活用する力を育てると
いう観点から

・実際の授業における指
導の充実という観点か
ら

○「読むこと」を基盤にし
た国語科授業を豊かにし
ていくために。

○「国語力はすべての教科
の学習の基本」ととらえ、
国語力の充実を図る。

○「読むこと」を基盤にす
る際には「図書館の活用」
が特に重要である。「学
習・情報センター」「読
書センター」として「図
書館が有効に機能するこ
と」が求められている。

○『作文読本』は、今求め
られている「読む」力の
育成にも、欠くことので
きないものである。